

## 県外派遣報告書

審判員名	九里亜紀	所属	中体連	
大会名	平成26年度関東高等学校女子バスケットボール大会兼 第68回関東高等学校女子バスケットボール選手権大会			
期間	平成26年6月7日(土)～8日(日)			
会場	鹿沼総合体育館・栃木県体育館			
スケジュール				
期日	内容	場所		
6月6日(金)	審判会議	ホテル丸治会議室		
6月7日(土)	トーナメント1、2回戦	鹿沼総合体育館・栃木県体育館		
6月8日(日)	準決勝・決勝	鹿沼総合体育館		
審判会議、レクチャー内容				
<p>前田 喜庸氏(東京都)より、「ライセンスアップしていく中で ～トップカテゴリーなどで起こるケース～」というテーマでレクチャーをしていただきました。ゴールテンディングやアンスポーツマンライクファールについていくつものケースを動画で見せていただき、成立する要件を確認しました。特にアンスポのケースでは、コーチ・選手のルール解釈に間違いがあるので、審判員がプレーを見極める必要があることを再確認しました。また、ライセンスアップを目指すには、準備と覚悟が必要であり、自分から求めていく心がなければ、経験値は上がらないというお話をさせていただきました。</p> <p>安富 朗氏(神奈川県)より、「レフェリーの必要性と重要性」というテーマでレクチャーをしていただきました。選手は毎日練習を積み重ねているのであるから、審判員も同じように技術の向上が必要である。割当には意図があり、その意図に対し、自分の役割を果たせたかどうかは次の割当で分かる。ただ「頑張る」のではなく、ゲームにマッチしたレフェリーを目指す。レフェリーは主役ではないが、必要な存在である。したがって名脇役としてそのゲームに携われるようにする。相手レフェリーを尊重しすぎることは協力にはつながらない。正しいプレーを悪くする判定をしないためのプレーの追いつき、目の当て方、確認。という今大会に向けた具体的な話をさせていただきました。</p>				
トーナメント1、2回戦 (Aブロック)				
担当試合	期日	6月8日(土)	男子 女子	女子
	対戦カード	宇都宮文星女子(栃木) VS 明星学園(東京)	主審	副審
	相手審判	橋本 美保子氏(神奈川)		
ミーティング内容		主任 川満 有紀氏(茨城)		
<p>ゲームの入りでのコンタクトの見極めが甘く、基準があいまいになってしまったことで、選手のラフなプレーが目立ってしまっていた。意図的な触れ合いに関して正しく判定していかなければいけない。また、トレイルの追従の動きが弱い。どこまでがトレイルレフェリーの責任なのかを確認し、協力できるようにしていかなければならない。という反省をいただきました。「協力」という部分において、自分の責任エリアに対しての判定が弱いことで、「協力」できていないことが1番の反省として残りました。選手の意図的なプレーを1つ目で判定できないことは、より自分たちの判定を難しくするゲームにしてしまうということを痛感した試合でした。</p>				

## 日本公認講習会(6月8日)

日本バスケットボール協会より、渡辺 亮氏(福島県)、吉橋 雅一氏(愛知県)による関東ブロック日本公認講習会がありました。

渡辺 亮氏より「よいA級審判員になるために」というテーマでリードレフェリー・トレイルレフェリーでの視野の当て方、プレーの予測の仕方などをいくつかのケースを例に挙げ話をいただきました。また、動きはオートマチックにならないようにし、気づきによって位置取りをしていく、その自分の責任を果たすことが協力になるということ、四原則の為に動くのではないということを確認しました。

吉橋 雅一氏より①誠実②習慣③普段という3つのテーマで話をいただきました。①では、モチベーションの維持、どんなゲームでも大切に、選手のために一生懸命。②では、普段の行いがいざという時に出る。現場で取り上げたファールと、レポートが違うということをなくすために、様々なカテゴリーのゲームを経験する。③では、会場に足を運ぶことや、ビデオを視聴することでチャンネルづくりをしていくことや、持久力・ウエイト(自分の立ち姿)を意識する。色々な行動をレフェリー活動に結び付けていく。というお話をいただきました。

2名の講師の方の話は、レフェリー活動をしていくうえで大切なことであり、基本的なことでもあると感じました。ここで教えていただいたことを当たり前のようにしたいと思いました。

## 全体の感想

昨年、初めて女子関東の派遣をいただき、多くのことを感じ、学び、課題が見つかりました。そこから1年間。県内でたくさんのチャンスをしていただき、経験をさせていただく中で、新たな課題にぶつかりながら今回の女子関東を迎えました。考えていることや、思いがあっても、成果が見えず、苦しく辛い思いをすることが多くありますが、このような場に派遣していただき、たくさんの審判員の方との交流の中で、改めて自分の目標、目標に向けての具体的な取り組みを確認することができました。今は、1つ1つの割り当てていただいたゲームを大切に、自ら場を求め、経験を積んでいきたいと思えます。今回、機会を与えてくださった方々への感謝の気持ちを忘れず、今後も県内の各大会に向け、日々精進して参ります。最後になりましたが、3日間、茨城県審判委員会の方々には大変お世話になりました。ありがとうございました。